

団体交渉の日程決定

申9号 設備職場における「技術継承、安全・安定輸送」を実現するための申し入れ

2017年6月8日(木) 10時00分より



職場から議論を創り出そう!

新潟支社内の勤務地を希望する社員に対し、グループ会社内外に関わらず出向先の一覧を提示するよう求めました。支社側は、会社を渡るのはなく業種とエリアを希望する制度であるとしながらも、一覧の提示を拒むものではなく、要請があれば資料を送るとの考えを示しました。

安心して利用できる公平な制度確立を求める

申4号 エルダ―社員制度の誠意ある運用を求める第三次申し入れ団体交渉

広域異動に応じ新潟支社外で定年退職を迎える社員が故郷でのエルダ―雇用に希望するにあたり、所属支社が異なることによる不利益が明らかになりました。新潟地本は5月19日、エルダ―制度の利用を希望する全ての社員に公平性を担保した誠意ある運用を求めた申4号について、団体交渉を行いました。

制度軽視の現場姿勢を厳しく指摘

今年度59歳を迎える社員に切り替えたのは会社員に対するエルダ―制度であるにも関わらず、現場で当該社員への周知を当日まで全く行わなかった事象が発生しました。この間の団体交渉において支社側から受けた「現場長が責任を持つ」との回答に反して、現場の管理総体としてエルダ―制度を軽視していると受け止めるを得ない事象です。地本交渉団が原因と支社の認識を問うと支社側は、担当の管理者が勤務手配を行ったが通知を失念したとした上で、残念な事象であり、指摘されている内容に対し真摯に対応していくと述べました。交渉団は、説明会を集合

支社外からの再雇用への障壁解消を要望

他支社で退職し新潟支社内の勤務地を希望した社員に対して再雇用契約まで実施した実績について支社側は、平成21年以降30名程度とし、提示は100%行つたとしました。また今年度退職を迎える社員で、他支社から新潟支社内の勤務地を希望する社員数は、横浜で1名、他支社で5名弱であると明らかにしました。交渉団は、居住地を新潟に戻してモニター通勤している人もいることから、できれば現職のうちに帰すべきだと要請しました。新潟支社内の勤務地を希望する社員に対し、グループ会社内外に関わらず出向先の一覧を提示するよう求めました。支社側は、会社を渡るのはなく業種とエリアを希望する制度であるとしながらも、一覧の提示を拒むものではなく、要請があれば資料を送るとの考えを示しました。

希望先の職場見学実施を強く求める

グループ内にエルダ―先が無いと言われる中で、ハローワークにグループ会社の求人が出ていた事実にについて問いました。支社側は、プロパー養成とエルダ―雇用の両輪で経営しているのではないかと考えを示し、人件費を含め経営に口は出せないとしていました。グループ会社も効率化で人が減り、欠員も出ている実態から交渉団は、出向負担金、契約単価の見直しで引き受けてくれる様になるのではないかと提言し、極めて親会社たるJRの問題だと主張しました。支社側は、グループ会社もエルダ―雇用の終わる12年後の運営を見据えているのではないかと考



軽作業と言われ出向した先が重労働のため、ドクターストップがかかり退職した事例があります。5夜以上連続夜勤の繰り返しに休勤が加わり一カ月の休みが年休を入れても4日しかないため退職した事例もあります。交渉団は、グループ外のエルダ―先に関するこれらの事例を把握しているのか質しました。支社側は、2つの事例は把握していないとした一方で、個別のトラブルは雇用推進室が相手会社と相談している部分もあると述べました。また、相手会社と書面を交わしているのが就労条件が違ふことあり得ず、雇用推進室も実作業を見たいから起きた事象であると強く指摘しました。

団体交渉に向け世代を超え議論

昭和採用連絡会 根拠付け集金開催

昭和採用連絡会は、地本申4号の団体交渉開催に向けて5月8、9日、15、17日の5日間にわたり根拠付け集金を開催しました。昭和採用のシニア組合員のみならず、平成採用の若い組合員にも集まっていただきました。グループ会社内には出向先がない筈なのにハローワークに求人が出て



会議後は手作りの料理とお酒で懇親を深めた

この様な実態からも支社内の勤務地を希望する社員に対し希望先の会社見学等を実施するよう求め、聞き取りの結果98%のシニア社員が見学を求めていると訴えました。しかし支社側は、見学してもその会社に行けるわけではなく、会社として橋渡しはしないと述べているとどまりました。交渉団が、現状では怖く希望を書けないと指摘し、提示後でも判断材料として見学を出来ないかと訴えると支社側は、出来るか否かは別にして雇用契約締結後であれば対応するとの考えを示しました。交渉団は、見学して駄目ならそれで終わってしまふため雇用契約締結後では意味がないと主張したものの支社側は、提示は一社だけであり再提示は無いと繰り返しました。各自が持ちえる情報や意見を出し合い、様々な視点から議論を行いました。交渉当日は連絡会代表が説明員として交渉に加わり、組合員の声を、思いを全てぶつけてきました。交渉を終え、現在エルダ―制度に関する討議資料を作成中です。これからのエルダ―制度に関する問題の解決に向けて、連絡会が中心となり取り組んでいきます。(昭和採用連絡会投稿)